

◇ 吉 谷 一 孝 君

○議長（山本浩平君） 引き続き一般質問を続行いたします。

9番、吉谷一孝議員、登壇願います。

〔9番 吉谷一孝君登壇〕

○9番（吉谷一孝君） 9番、吉谷一孝でございます。私はことし45歳になりますが、高校卒業後27年間建設業に携わって、今まで私の人生の半分以上かかわってきて、現在は介護の仕事をしていますが、今この時期に本当にこの公共事業について財政厳しい中このような質問いいのかというように考える方もいらっしゃるかと思いますが、その経験をもとに私なりの考えをここでご質問させていただきたいと思っております。通告に従いまして、公共事業の考え方について質問させていただきます。

1点目、白老町が現在行っている入札制度と、今後制度の見直しがあるか伺います。

2点目、過去の土木・建設・設備の公共事業費のピーク時の発注金額と現在の各発注金額を伺います。また、今後の見通しについて伺います。

3点目、発注額ピーク時の建設事業者数と従事者数、現在の事業者数と従事者数を伺います。

4点目、現在計画されてはいるが行われていない事業はあるか。また、その事業を行う時期について伺います。

5点目、「民族共生の象徴となる空間」の構想に絡めた新たな都市整備を行う計画はないか伺います。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） 公共事業の考え方についてであります。

1項目めの白老町が行っている入札制度と今後の見直しについてであります。本町では、土木工事2,500万円以上、建築工事については5,000万円以上の発注工事は、制限付一般競争入札制度を採用しており、それ以下の工事は、指名競争入札制度を採用し、地元業者の受注機会の確保、育成を図っております。今後も引き続き同様の制度を採用していく考えであります。

2項目めの公共事業費の発注額についてと、3項目めの建設業事業者数と従事者数については一括してお答えします。公共工事の発注は平成6年度がピークとなっており、発注金額は約43億2,000万円、町内の指名登録建設業事業者数は45業者、従事者数につきましては、白老町統計書の産業別就業者数から、直近の7年度で1,306人となっております。また、現在であります24年度の発注金額は約5億5,000万円、事業者数は26業者、従事者数につきましては23年度数値から729人となっており、発注金額で87%の減、事業者数で42%の減、従事者数は44%の減となっております。今後の見通しではありますが、財政状況の厳しい中、高率補助の事業を積極的に模索していきたいと考えております。

4項目めの計画事業の実施についてであります。町営住宅の維持修繕計画や舗装補修計画などがありますが、財政状況により計画どおりに進んでいない状況であります。今後新たな行財

政改革計画で、事業量と財源を十分に検討しながら計画との整合性を図ってまいりたいと考えています。

5項目めの「民族共生の象徴となる空間」の構想に絡めた新たな都市整備を行う計画についてであります。昨年7月に国の関係省庁連絡会議において「民族共生の象徴となる空間」基本構想が決定され、ことしの夏には中心的な施設となる博物館の基本構想が文化庁により策定されることになっております。私も博物館調査検討委員会に参画し、現在まで7回の検討を重ねておりますが、その検討が基本構想のもとになります。また、国は象徴空間内で行われる文化伝承、人材育成、体験交流活動等の具体的な取り組み内容についてはことしの夏に、整備・管理運営手法のあり方等については今年度中に一定の結論を出すことにしております。しかし、象徴空間オープンに向けた整備スケジュールについてはいまだに示されていないところであり、早期に明らかにするように国へ要望を行っております。なお、昨年度から庁内各課で構成する白老町象徴空間整備促進検討委員会において、象徴空間周辺の整備について検討を進めており、しかるべき時期には、町としての役割を果たせるよう取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（山本浩平君） 9番、吉谷一孝議員。

〔9番 吉谷一孝君登壇〕

○9番（吉谷一孝君） ご答弁いただいたまず1つ目の入札制度の考え方についてであります。私は、昨今の経済状況の中、今白老町が行っているこの入札制度については十分理解できるものというか、他の自治体を考えてもこれは継続して行っていくべきことではないかと考えております。やはり、町外でたくさん仕事があれば、それは、事業者も町外に出て外貨を稼ぐという方法もありますが、とにかくこの昨今の経済状況の中にありまして、仕事のパイが激減している中、できるだけ地元で行われる仕事については、地元で発注して地元で受注する。その中で、先ほど同僚議員からも出ていました、地域経済の循環という観点からも、私はこの考え方は間違っていないしこの方法を続けるべきだというふうに考えております。

続きまして2点目、過去の発注額と現在の発注額について。このことをなぜ聞いたかといいますと、状況のよかったときと現在の状況の差異がどれほどあるかということの理解を私たちももう一度考えなければいけない時期に来ているかなと。行政側もそのことについてもう一度立ちどまって考えていただきたいという思いでこのことを聞きました。その中で、金額でいきますとピーク時は43億円。23年度におきましては5億5,000万円というような形になっております。それでいきますと87%の減です。これはいかに町内業者が少ない発注工事の中で努力しているかというような事がうかがえるかと思うのですけれども、それともう一つの考え方としては、事業者数で45事業所から26事業所で、従事者数が1,306人から726人、42%、44%削減されたと。このことについて、前回の議会の中でも話されている除雪等、社会インフラ整備に対して影響が出ていると思いますが、その点についてどのように押さえているかお答えください。

○議長（山本浩平君） 岩崎建設課長。

○建設課長（岩崎 勉君） ピーク時から事業所数が減ったり従業員が減ったりした影響につ

いてでございます。先ほど除雪等のお話がありました。工事が少なくなっているために除雪の重機の維持ができないということで業者数も少なくなってきた、年間の除雪体制を組むのも苦慮しているところがあります。ただ現状で考えておりますのは、今はそういうところは最低補償をしながら対応していきたいと考えております。今町の財政事情がありますので、できる範囲の中でやっていくということでしか対応できないのかなと思っております。

○議長（山本浩平君） 9番、吉谷一孝議員。

〔9番 吉谷一孝君登壇〕

○9番（吉谷一孝君） 9番、吉谷です。今あったように影響は出ております。これはごく一部です。もう一つ別な観点からなのですが、6月5日の新聞報道で帯広、名寄の公共事業の入札で、相次いで応札ゼロということになりました。僕が問題としているのは、この応札がゼロだったということではなく、その裏側にある背景です。先ほども話しましたが、近年は公共事業が削減される流れの中で、業界の人員の削減、事業者も事業費がどんどん落ちていく中で人員を確保するのが難しくなっている状況があります。そこに、今度東日本大震災が発生いたしまして、東北地方に担い手、資材等も大幅に流れている現状があります。そういった極端な構造がある中で起きた状況かと思えます。

私が危惧するのは、先ほどの事業者数の減少もそうですけれども、従事者数の減少、ここにも大きく注目しています。事業を継続していくにもやはり人の力が必要なのです。人の力が必要であるけれども、そこで職人と言われるまでその仕事につくには、やはり3年から5年、長ければ10年かかるのです。それを監督する管理者も同じように5年から10年かかるのは業界でいえば通常なのです。ですから、そういったことがここで繰り返されると人の流出はどんどん続くし、そういった人材の育成もこれからの企業が存続していくためには十分考慮していかなければならない状況にあると思えますが、その人材育成の観点から、行政側としてはどのように考えているかご答弁いただきたいと思えます。

○議長（山本浩平君） 岩崎建設課長。

○建設課長（岩崎 勉君） 現状では、地元業者の方には幾ら発注するかという年間の計画をお示した中で、自分たちでやれる人材の確保をお願いしているところです。その中で役場のほうも、現場監督員とか新しい方については、このところを注意してほしいというようなことを指導しながら育成も考えているということでもあります。

○議長（山本浩平君） 9番、吉谷一孝議員。

〔9番 吉谷一孝君登壇〕

○9番（吉谷一孝君） 9番、吉谷です。この従業員数が大幅に44%減って、人員にしますと580名少なくなっています。580名单純にそこに従事されている方が少なくなるということではなくて、考えれば、言い換えればその家族も含めた人口で、ここに仕事がなければ、その家族も一緒に白老から町外に出るということも十分考えられます。私はそういうことも考えながら公共事業のあり方というものを一度考えるべきではないかというふうに思います。白老町の人口減少の一因になっているという認識があるかどうかお伺いします。

○議長（山本浩平君） 岩崎建設課長。

○建設課長（岩崎 勉君） 今質問されたとおり、従業員数も減っております。それによってやはりそういう作業員の方が地元からいなくなっているということがあれば、それは一部影響があるのかなと考えております。

○議長（山本浩平君） 9番、吉谷一孝議員。

〔9番 吉谷一孝君登壇〕

○9番（吉谷一孝君） この言葉が適切かどうかはわかりませんが、僕も建設業長く携わっていた中で、よく先輩たちから耳にした言葉なのですが、土方殺すには刃物はいらぬ、雨の3日も降ればいいと昔はそう言ったのです。今は社会保障だとか、企業自身も経営努力をされてそういったことは少なくなりました。しかしながらこれほど大幅に公共事業が少なくなっていくと、誰に影響するかというとやはりそこで働いている人たちなのです。1週間のうちに1日か2日しか仕事当たらないという現実を見てきました。下手をすると1月のうち1週間しか働いていない現実も見てきました。そういう中でも、その人たちはなぜそこから離れられないか。そういう人たち、土木とか建設業に従事している方々は、やはりもうそこでしか生きていけないような状況なのです。勉強が嫌いであったりとか、ドロップアウトした人であったりだとか、そういう人達が多い職場でもあるのです。そういう大変な状況でもよそでなかなか働けない状況もあって、雇用の最終受け皿というように僕は仕事に従事しながら考えたところです。ですから、私はできるだけこういうところにも目を向けて、そして、ただ単に働いている従業員、事業者だけを守るということではなく、もっと行政として社会インフラの整備を行うという観点でこういうところにも目を向けるべきではというように感じております。

次に、4項目めになりますけれども、町営住宅の維持修繕工事や舗装補修計画などがあるということですが、これは今年度の予算に計画として盛り込むことができるかどうかお伺いいたします。

○議長（山本浩平君） 岩崎建設課長。

○建設課長（岩崎 勉君） 今のご質問です。町営住宅の補修計画につきましては、25年度の当初計画から一部やらせていただいています。それと、舗装の補修計画につきましては、今回の補正で何本か上げさせていただいているという結果であります。

○議長（山本浩平君） 9番、吉谷一孝議員。

〔9番 吉谷一孝君登壇〕

○9番（吉谷一孝君） 質問から引き出すという僕の技術が至らないのですが、僕の思いというか業界の思い、そういったものを酌んでいただきたいと思います。と思っております。

先ほども言いましたが、財政状況が厳しい中で、これから計画に大幅にそれを盛り込むということは厳しいのは十分理解していますが、やはり少しでも地元企業の経済活性化に向けての計画づくりというようなことを考えていただきたいと思います。というように思います。

5項目めです。「民族共生の象徴となる空間」の構想に絡めた都市整備についてということですが、ことしの夏に取り組み内容について出る整備、運営計画について、一定の結論が

出るということではありますが、その結論が出た後に整備の検討を現在進めているということではありますが、進めている計画をお示しいただけるかどうかお伺いいたします。

○議長（山本浩平君） 岩崎建設課長。

○建設課長（岩崎 勉君） この計画というのは町の計画ということでしょうか。今内部検討委員会で話題というか、こういうものが必要ではないかというものを上げさせていただければ、国立博物館ができればそれだけの入場者が来ると。そうすれば、多分車両で来るのではないかということになれば、そのアクセス道路をどのようにしたらいいかということが一番の問題になってくるのではないかと。今のこの踏切では対応できなくなるかもしれないと。それくらいの入場者になるならば、できれば国道から一本アクセス道路をつけていただきたいとかそういう話題をしております。あそこに温泉があります。その温泉をどこに移したらいいとか、どのように生かしたらいいとかそういう話もあります。あとそういう人が集まるのであれば、飲食店等が入るそういう店もつくってはどうかという話題もありますけれども、まだいかにせん国立博物館の計画がどのようになるか、そういう入場者数が幾らになるかとかまだはっきりしていませんので、はっきりした計画を進めていくことはまだ早いのかと思っています。

○議長（山本浩平君） 9番、吉谷一孝議員。

〔9番 吉谷一孝君登壇〕

○9番（吉谷一孝君） まだ計画段階ということで、内部的な話は少し進んでいると受けとめました。この象徴となる空間構想、これから白老町にとって大きな希望の光になる事業でありますけれども、それに付随して、今後のまちづくりに対して行政ばかりではなくて民間も入れた中での協議会とかそういった組織づくりをする考えはありますか。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 公共事業からちょっと離れてしまうのですが、象徴空間については基本的には国の施設であると。それが白老町に選定していただいたということを考えると、白老町で今何がどうできるのか模索している最中でございますので、今庁舎内の検討委員会でも、今度はそれを国が進むことによって、白老町として町民も巻き込んだ中で何ができるかというタイミングのときにはそういう形で何らかの会をつくりたいと思っています。

○議長（山本浩平君） 9番、吉谷一孝議員。

〔9番 吉谷一孝君登壇〕

○9番（吉谷一孝君） 公共事業と離れているように一見取られるのですが、これはなぜそういう形をとったかという、今まで公共工事イコール悪というようなイメージを持たれがちだったというか、そういうイメージで仕事をしながらよく言われたのです。報道関係では、こんなところに道路いるのかとかこんなところにこんな建物いるのかとかよく言われながら、そういう報道を見ながら、本当はそこに住んでいる人たちとか使ってもらう人たちに対して喜んでもらえるような施設であったり、道路であったりつくりたいなというふうについていつも感じていたのですが、なかなかそういうふうになってこなかったというか、報道される部分はそういう公共事業は無駄なものが多いというようなイメージで考えられたのですが、こういった構想を

含めた中で新たに都市計画といいますか、そのアクセスに関することもそうですけれども、商店街も含めたそういった構想ができると、いろんな意味で波及効果が膨らんできていいのかなというふうに感じてこの質問をさせていただきました。そのことについて、町長いかがですか。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 公共事業に限らずいろんな職種や仕事があります。それに携わっている方々で私たちの生活が成り立っているのは事実でございますので、その一つが欠けても、生活に支障を来すという観点からは、公共事業は立派な仕事であると思いますので、吉谷議員が言うほど重い仕事ではないと思いますので、私の考えとしては、仕事は皆さん一生懸命に従事しているものでございますので、公共事業に携わっている会社を差別するとかそういう形では全く考えてございません。

○議長（山本浩平君） 9番、吉谷一孝議員。

〔9番 吉谷一孝君登壇〕

○9番（吉谷一孝君） 私が今まで従事していた中でいろいろな考え方を述べさせていただきました。この質問をするのは、私も仕事をかえて言いやすい立場になったということもありまして、今まで経験してきた僕の後輩であったり仲間であったり、従業員であったり、その人たちの今後の生活もそうですし、これから雇用の受け皿というお話もしましたけれども、仕事がなければ子供を育てる環境にないのです。まず確実にあしたも仕事があるという状況を何とかつくってもらいたい。あしたの仕事もあると思うから気持ちに余裕ができて買い物もするのです。そして明日も仕事があつていつになったら給料がもらえると思うから買い物にも行くし、お酒も飲みに行くし、子育てにもお金が使えるのです。そういった観点から、少し後戻りになるかもしれないのですが、公共事業というものをもう一度考えていただいて、今後計画の中にこれから行っていかなければならないインフラ整備も盛り込んでいただきたいというように思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 公共事業に関する考え方でございますが、政権がかわってから防災・減災ということを中心に、今公共事業が日本中で予算がついている状況でございます。国民が、町民が余り使わないところにお金を出すのではなくて、町民の命を守るためにインフラ整備が非常に大切なときに来ていると思っております。

今回、吉谷議員の質問の2項目めで私も勉強になったのは、平成6年度をピークに事業者数、そして従事者数が約半分にも落ちているというのは、白老町の経済にとっても大変痛手であることを再認識したところでございます。私たちの役目としては、地元企業の成長と、それにかかわる人材育成の成長も含めて、できるだけ地元企業が貢献できる公共事業を行っていきたくと考えております。

最後の質問にあった象徴空間についても、大きな施設を期待できる場所でございますので、この施設が来ることによって、インフラ整備も必ず工事があると思いますので、こちらのほうにも大いに期待をする場所でございますし、できてからも観光なり、旅行者がたくさん来る象

徴空間として、ますます大きな期待をするところでありますので、公共事業についてもそちらのほうに力がいけばいいなというふうに感じております。私たちの仕事は、今ある事業者、従業員の方々の仕事がなくならないように努力をしていきたいと思っております。

○議長（山本浩平君） 以上をもちまして9番、吉谷一孝議員の一般質問を終了いたします。